

閉会全体会

閉会あいさつ

山田 定市（『協同』のための北海道集会実行委員長）

まず最初に、休日を返上して、さらに遠くから多数の方がおいでになって、早朝から熱心に討議いただいたことにつきまして、心から「ご苦労さまでした」と申し上げたいと思います。

今日の集会でございますけれども、受付で名簿を書いていただいた数が一番確実な数字でございますが、それが184名に及んでおります。（拍手）さらに、この集会の趣旨に賛同して、いわば下働きの事務局を引き受けていただいた方々を含めると、概数で200名の集会であったということを申し上げることができると思います。先ほど、分科会報告、そして最後に永戸さんの方からも討議の内容を含めまして、規模、内容共にこの集会は成功したという事を確信をもっていうことができます。そのことを皆さんとともに確認したいと思います。（拍手）

この集会のメインテーマは、朝も申しあげましたように、「協同」で切り開く地域づくり・仕事おこし」というふうに設定したわけでございますけれども、いわばこのテーマ自体、言うまでもなく今日で終わることではなくて、これから10年先、あるいは21世紀になってから、あの時1993年に札幌でこのように主題を設定してやった意味というのがますます重く意義あるものとして確認できるという、そういうふうに振り返ることのできる、長い見通しを持ったテーマをこの集会で設定したというふうにいえるのではないかと思います。そういう意味でいえば、このテーマ自体が、模索、新しく創り出すという事を込めたテーマであったと思います。そういう中で、先ほど約200名と申し上げましたけれども、ざっと名簿を拝見致しましたけれども、時間がなくて集約する余裕はござ

いませんが、主催者の想像を上回る、非常に多くの領域、地域、そして様々な職場、あるいは団体、ボランティア活動をなさっている方々、そういう方々が非常に多数参加されておりまして、そういう意味で非常に深まりと内容のある集会であったということができるようになります。

そういう中で、一つには、太田原先生のお話にもございましたけれども、コープアイランドというにふさわしい農協、生協、漁協、森林組合を中心とする、あるいは中小企業協同組合を中心とする、既存のいわば組織として確立している協同組合運動の分厚い蓄積が北海道にはあるわけでございますけれども、その協同組合運動自体を今後どのように発展させていくかということの今後の方向性は、労働者協同組合をはじめとして、ここで設定され、分科会で深められたそれぞれの課題が、新しい可能性を秘めているわけございまして、そういう新しい芽が、地域に根を下ろして発展していくためには、改めて既存の協同組合組織、運動と連帯しておこなわれるということの中で、既存の協同組合自体がまた新しい領域にチャレンジしていくということにもなろうかと思います。そういう意味で、共々に協力しあいながら発展していく見通しが集会の中で明らかになったのではないかと思います。しかし、あくまでもそれは目下のところ協同活動の可能性ということでございまして、その可能性を現実のものとするためには、今後さらに実践を基礎にお互いの今日行われたような交流と学習、そしてこれは研究者がやるという意味ではなくてもっと広い意味でございますが研究調査活動、そういうものを通して、道筋をもっとはっきりさせていくということが大

切であるというふうに思います。そのためには、この集会をこの1回で終わらせるということは到底できないわけでごさいます。改めて、午前中にも申しましたけれども、この集会を第1回というふうに銘打ち、今後近い時期に2回目そして3回へと発展させていく、それに向けてまた今日以降、貴重な成果をそれぞれの地域や職場に持ち帰って皆さんと共にそれを発展させ、その成果を今後の同じような主旨にこの集会に反映させ発展させていきたいと、そういう決意を新たにしたいと思います。

最後に、改めて、全国から支援の意味も含めて駆けつけてくださいました仲間の皆様、それから、全道各地から、お忙しい中この集会のために結集された皆さんに心からお礼を申し上げまして、簡単ですけれども閉会のあいさつに代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

参加者の感想

国田寿子 民族歌舞団こぶし座

参加したかったし、参加してとても良かったです。

ただ時間が足りませんね。もっと知りたい、つかみたい、質問もしたい…。だけれど、今回は第一歩なのだから、これからの継続、発展を目指すべきなのでしょう。

私たちの約30年の歩みも、文化という分野ですけれど、あり方、そのものは「協同」の精神そのものでやってきました。個人としては函館の重度の肢体不自由者の共同作業所づくりに少ししかかわっていて、もっと勉強したかったです。

○ごころうさまでした。ありがとうございました。

阿部悦子 北大生協

北海道のすみずみから、「協同」のとりくみ、参加で地域が生き生きし仕事が増え、生産者も都市で生活するものも「生命」、「生活」、「環境」、など生きていれば誰でもぶつかる全てのことをお互いにわかりあいながら、働き生活し豊かな文化を創りあげられたらどんなにすばらしいか——。第1回北海道集会に参加できて本当に良かった。各地でのお話も大変良かった。でもこれからですね。

瀬尾英幸 株式会社あい食品

非常に勉強になった。自分の事業分野についても改めて思考を深めるきっかけになった。より人間的なつながりを深め、成長をもたらすような事業にしていきたい。そのような決意を促すような集会であった。やはり、根本は一人ひとりの人間の成長にあると思う。



あとがき

竹下 満 高 (北海道建設企業共同組合連合会)

北海道でこのような集会が開かれたのははじめてであった「このような」というのは、地域づくり、と仕事おこし、を共通の目標にして、各分野でのとりくみを発表しあい、交流し合うこと、同じ団体に経営を担う人と労働組合幹部が参加したこと、各分野で実践の先頭に立っている人と、多分野の研究者が協力して集会をつくり上げたこと等、そこに共通するのは「いかに人間らしく生きられる地域や職場をつくるのか」という「熱い想い」であったように思われます。

はじめて、の試みということでの不十分さはまぬがれませんが、北海道全体(地域的にも実践内容も)の到達を反映した集会として画期的な意義を持ち、大成功しました。そうした成果をもたらした主な要因は、毎月一回の実行委員会、また分科会世話役会議での討議と内容の練り上げにありました。民主的な討議を繰り返しながら知恵を寄せ合い「手作りでつくりあげた集会」というのが実感です。実行委員各位をはじめ快く報告を引き受けていただいた16人の方、また集会当日参加された73団体約200名の方に心からお礼を申し上げます。

7月8日第6回目の実行委員会において、集会実行委員会は解散をしました。

しかし、この成果をさらに発展させるために何等かの母体が必要という事で、「協同」のための北海道集会「世話人会議」を当日参加した実行委員と地域的(札幌ばかりでなく)なことも考慮しつつ世話人を膨らせながら、概ね2年後に全道規模の集会を展望しようということになりました。

その間、学習・研究会やとくに地域別の交流・学習など、より地域に密着した取り組みを進めていくことが構想されています。例えば道内の各地域で、規模にかかわらず、できるところから実践を持ち寄り深め合い、そこに研究者の方々もそれ

ぞれの立場から参加して、お互いに深め合うような集会や研究会が考えられます。すでに11月20日には、協同総合研究所と共催で黒川俊雄先生をおよびしてシンポジウム「北海道における労働者協同組合の発展の可能性」を開催することがまっています。

また全国レベルでみると、今秋、長野・青森・富山などで協同集会や協同まつりが次々と開催されていきます。京都・鶴岡・鹿児島などでは運動の前進に応える協同組合間協同、労働者協同組合と協同労働の意義を理論的に深める研究会の結成が取り組まれています。北海道や全国の新しい協同の実践と研究、そのネットワークが1994年秋、名古屋市で開催予定の全国協同集会へと実っていくことになるでしょう。

この「報告集」が北海道の民主的発展にささやかであっても貢献することができ、全国の協同組合や協同を追求する方々に活用されることを願ってやみません。

集会実行委員会よりのお願ひ

集会当日の「資料集」をお分けしています

『「協同」で切り開く 地域づくり仕事おこし』

1,000円(送料込)・A4判・56頁
集会実行委員会編、各報告の資料も掲載、本報告とともにご利用を。
北海道建設企業共同組合連合会まで郵便、電話、FAXで。担当：竹下
〒065 札幌市東区北23条東 20-2-15
☎011-786-1881 FAX.011-786-1877